



2018年6月29日

国立研究開発法人 建築研究所国際地震工学センター

第158号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

## 今月の話題

- 汶川地震10周年記念国際会議への出席
- 中南米地震工学コース研修旅行レポート
- 中南米地震工学研修行政官グループ閉講式
- YEAR BOOK 2018

## • 研修データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

## 汶川地震10周年記念国際会議への出席

国際地震工学センター 主任研究員 林田 拓己

横井センター長と私の2名は、5月12～14日に中国・成都市で開催された汶川地震10周年記念国際会議へ出席しました。この会議は第12回アジア地震学連合総会および第4回大陸地震に関する国際会議との合同開催であったため、49カ国から1,400名以上もの関係者が参加しました。

学会の初日はちょうど69,000名以上の犠牲者を出した四川大地震(Mw7.9、中国名:汶川地震)から10年目にあたる日で、午前中に開かれた開会式では中国の政府要人による挨拶の後、参加者全員で犠牲者に黙祷を捧げました。

私は「常時微動記録を用いた地下構造のイメージング」セッションにおいて、ネパールで実施した微動探査に関する口頭発表を行いました。

大会期間中は、国際地震工学センターの研修を紹介し、研修への呼びかけを行うためのブースも設置しました。また、四川大地震を受けて実施した中国耐震建築研修(2009-2012年)に関するパネルも並べて展示しました。2日間にわたって展示したブースには、元研修生を含む多くの参加者が足を止めて下さいました。

学会のスケジュールがタイトであったため、残念ながら同窓会を開くことはできませんでしたが、15名の元研修生に面会し、旧交を暖めることができました。大会2日目の夜には、展示ブースに居合わせた元研修生3名と夕食を楽しみました。



開会式の様子



国際地震工学センターの展示ブース

## 地震データベース

2011年3月11日東北地方  
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

## 中南米地震工学コース研修旅行レポート

ヴェントウラ ゴメス ロサ ミリアム (エルサルバドル),  
フエンテス カナス クラウディア エリザベス (エルサルバドル),  
グティエレス ウレナ カルメン アントニア (ドミニカ共和国),  
ヴァルディヴィア ソマリバ ソレダド デル ロサリオ (ニカラグア),  
サバンド アントン リリアナ ジャケリネ (エクアドル),  
アンシア ヴァルガス ヤイミー (コスタリカ)  
ミランダ フアレカロ フディス マルレニ (ペルー)

まず初めに、この研修旅行を計画して下さった JICA, BRI, すべての関係者の方に感謝いたします。アクションプランのために価値のある知識を与えていただきました。

名古屋では16世紀の建築である城を訪れました。

木の建築物は、さねはぎになっており、基礎も石の壁にも採用されていました。

名古屋大学を訪れた際には、地域の人々、特に子供にも分かるよう、小さい縮尺模型を使用し、防災を普及させるため、有益な方法が使われていました。

また研究室では過去の地震の実験や防災の意識について学びました。

神戸では本荘教授が、自然災害の前、その間、その後で、リスク管理の統一の重要性を強調されていました。人と防災未来センターではビデオや写真を通して災害当時の人々の体験を見ることができました。神戸地震によってできた本物のひび割れも保存されており、防災の意識が高まりました。

明石海峡大橋では設計と建設の際、とても興味深い物流プロセスが行われていたと説明がありました。

京都では、強い地震に耐えることができた東寺で、構造設計の重要さや、修復のための独自の素材や技術を使った古代の建設の保存についても学びました。

東京の大林組技術研究所では実験棟の免震の新しい技術や、エネルギー効率の適用について見学しました。振動体験装置での本格的な神戸地震の経験は非常に印象的で、そして建築



本荘教授と研修生



京都 東寺

## 論文募集

IISEE Bulletinは、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



明石海峡大橋

士の役割や設計、建設の重要性が明白であると感じました。

私たちは JICA が研修の中で与えてくれた重大さや質、たくさんの知識を私たちの職場を通して国に広めたいと思います。

最後に私たちは日本の防災の文化と課題に対する人々の能力に感銘を受けました。

グティエレス リヴェラ ダビド (ホンジュラス)  
ペラルタ ペラルタ フアン パブロ (ドミニカ共和国)  
ディアス ペレス ホセ アントニオ (メキシコ)  
デルガド ロドリゲス カルロス ウーゴ (メキシコ)  
フロレス ハルクイン フアン カルロス (ニカラグア)

私たちは JICA、IISEE そして BRI にこの研修旅行の大きな感謝の気持ちを伝えたいです。

私たちが初めに訪れたのは修復過程にある、美しい名古屋城でした。その午後私たちは福和先生と倉田先生によるシンプルな実例を使った、複合動的構想について特別授業を受けました。

彼らは地震工学の遊び場のような、減災連携研究センターの周りを見せてくださいました。

そして神戸に移動し、本荘先生の防災のための迅速で効果的に対応するシステムについて、高度に組織化された方法について講義を受けました。その後 1995 年の阪神淡路大震災の記憶を提供し、災害に対し備えを意識させる、人と防災未来センターを訪れました。

明石海峡大橋を訪れたことはまるで夢がかなったような体験でした。世界一の支間長、世界一高い橋を、身を持って体験することができました。







楽しむのは今です。

## 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

[iiseenews@kenken.go.jp](mailto:iiseenews@kenken.go.jp)  
<http://iisee.kenken.go.jp>



野島断層保存館



人と防災未来センター

私たちはこの橋の構造がどう機能しているのか、工事やメンテナンスについて、詳細の情報をいただきました。そして橋の中を見るツアーにも参加しました。

野島断層保存館にも訪れました。地面の中の断層がどう動くのかを見るのはとても興味深いものでした。私たちは断層力学の基礎についても学び、いくつかの断層も観察しました。

京都では東寺を訪れ、五重の塔の耐震と揺れの吸収の仕組みを学びました。そのあとに修復現場を見学しました。

そして金閣寺を訪れ、その後は実在し、現在も使用されている、最古の煉瓦造りの建物の一つである同志社大学のキャンパスを見学しました。

東京では大林組の研究所を訪れ、建物のデザインと研究に関して最新技術を体験しました。



振動体験装置

バックナンバーは  
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

研究所の建物は耐震と省エネにおいて、最先端技術の実例でした。

私たちはラピュタ 2D という最も進んだ耐震装置システムを体験しました。

また、多才な家づくりのための斬新なシステムや、それらが近年日本でどう発展していったのかを学んだ UR 都市再生機構 技術研究所にも訪れました。

そして最後に森先生と那須先生から受けた授業では日本の建築法や法令、設計や施工のための監督手順も学びました。

私たちはこの忘れられない経験に深い感謝の意を伝えたいです。私たちは本当に研修旅行を楽しむことができました。この経験は私たちの心の中に生涯残るものです。そしてこの経験をいつか生かしたいと思います。



同志社大学キャンパス

## 中南米地震工学研修行政官グループ閉講式

国際地震工学センター 管理室長 飯竹理広

6月6日(水)、建築担当行政官グループの2名は、本研修で学んだ耐震技術を踏まえて、自国の建築行政における防災政策の推進及び耐震化を促進する具体的行動計画をテーマとしたアクションプランの発表後、JICA 筑波で行われた研修の閉講式に参加しました。

閉講式では、JICA と BRI/IISEE から修了書が授与され、ドミニカ共和国のカミーラさんとエクアドルのリリアナさんのお二人が挨拶をしました。

お二人には、日本での経験を活かして、母国での地震災害の軽減にご尽力されることを期待しています。





ドミニカ共和国のカミーラさん



エクアドルのリリアナさん

## YEAR BOOK vol.34 2018

IISEE では 2 年に一回 Year Book を発行します。

只今新しい YEAR BOOK の準備中です。7 月にレスポンスシートをお送りしますので、iisee@kenken.go.jp に返送をお願いします。

なお、レスポンスシートは iisee のホームページからダウンロードできます。

レスポンスシートを返信して下さった方にのみ YEARBOOK をお送りします。

8/31 までにいただけると幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。